

週日の説教

金 大烈 神父 2009年6月11日(木)

《私たちの "手"を待っている人がたくさんいます》

今日、久しぶりに病気の方を訪問しました。たった4軒訪問しただけなのに、皆さん待っていたような笑顔を見せてくださいました。それを見て、このような生きがい、やりがいを感じられるのは、やはり神様からいただいた福音的な賜物ではないかと思いました。笑顔を見て、待っていたのかなと感じるとき、「このように何かを望んでいる人がいるのだから、私はそれを果たさなければならない」ともう一度反省できるような気がします。私たちの人生には、このように健康的な刺激が必要なのだと思います。

人間の弱さの一つは、鈍くなってしまうことですよね。どれほどよい言葉でも、繰り返して聞くと、あまり感動しなくなります。たぶん皆様も、初めてこの教会で私が話した説教を聞いた時に感じた気持ちと、3年経っている今、同じ口から話される言葉から感じる気持ちとでは、感じ方が違うと思います。それに、全く同じ環境にいる相手でも、その言葉に隠れている本当の意味は、知ろうと意識しなければ分からないことがあります。当然、韓国人の私の言葉の場合は、それ以上に意識して、分かってと努力しなければ、本当の意味に感動することはできないのではないのでしょうか。

私が初めて司祭になり、病者や弱い立場の人々のところへ行っただけには、とても感動しました。そして、この人々のために全てを捧げることができるだろうと思いました。しかし、時間が経って、慣れてしまうと、自分が怠け者になってしまいます。そして、同じものを見て、感じ方は以前と違ってきます。そういう自分に気づいて、今日は、嬉しい気持ちにもなりましたが、少し悲しい気持ちにもなりました。たぶん、皆様も同じだと思います。信仰の喜びを感じる時もあるでしょうし、落ち込んでしまうこともあるでしょう。しかし私たちには、いつも変わらない、同じ意識を持って、求道者の道を歩もうとすることが何よりも必要です。少し関心を持って周りを見れば、私たちの足りない、弱い手でも、待っている人がたくさんいるのが目に入ります。そういう意識を持ち、本当に助けを求める人々に少しでも役に立つ力になれば、実際に助けられるのは、むしろ私たちのほうなのではないのでしょうか。皆様、やはりいろいろなことで落ち込むこともがっかりすることもあると思います。しかし、難しさに囲まれて悩んでいる人々がいること、そして、たとえ弱い力であっても私たちの力を必要としている人々がいることを意識すれば、元気になれるのではないのでしょうか。

今日の福音(マタイ 10・7 13)で、イエス様が使徒たちを派遣しながら、「あなたがたを受け入れるに相応しい家庭があれば、その中でまず平和を願ってください。」とおっしゃいました。平和を願いながら、祝福する気持ちを持って係わりを作れば、やはり、よりよい生き方ができるのではないかと思います。

ありがとうございました。